



つくバグ 昆虫採集を通じた環境教育活動

薩満司¹、小嶋佑果¹、上原拓也²、内海昌¹、加藤大智¹、小長谷達郎¹、高原朗¹、徳嶋賀彰¹、中村篤史¹、長澤亮¹、山口芽衣²、太田あずさ¹
1 生命環境学群生物学類、2 生命環境科学研究科



1. はじめに ~つくバグって?~

地球環境への関心が高まりつつある一方で、子どもたちが身近な自然に触れる機会は減りつつある。そんな現状を打破すべく立ち上がった、生物学系の学問を学ぶ十数名の学生で構成される2009年に発足した団体である。活動内容としては、地域の子どもたちを対象とした年に数回の昆虫採集を中心とする自然観察教室や標本作成教室を行っている。またこの活動が、**子どもたちが身近な自然に目を向けるきっかけとなることを目指している。**



2. 活動報告 2010年から2012年5月まで

週に1度スタッフミーティングを行い、企画の計画や準備を行う。これまでに行ってきた企画は次の通り。

夏バグ2010 in Tsukuba 「おしと同じ視点になってみよう」



日付:2010年7月25日
場所:筑波大学虹の広場
参加者:20名
内容:自然観察
昆虫採集
標本作製



夏バグ2010 in Osone 「大曾根のおしを探そう!」

日付:2010年8月19日
場所:つくば市大曾根児童館
参加者:50名
内容:自然観察
昆虫採集
標本作製



※大曾根児童館より依頼を受けて実施

秋バグ2010 「生き物のスケッチに挑戦しよう」



日付:2010年10月31日
場所:筑波大学虹の広場
参加者:20名
内容:自然観察
昆虫採集
スケッチ

※台風接近により中止

夏バグ2011 「生き物の形を比べてみよう」



日付:2011年7月17日
場所:筑波大学虹の広場
参加者:18名
内容:自然観察
昆虫採集
自作顕微鏡での観察
スケッチ



春バグ2012 「生き物のスケッチをしてみよう」



日付:2012年5月13日
場所:筑波大学虹の広場
参加者:13名
内容:自然観察,昆虫採集,
スケッチ教室



2011秋の大昆虫博

日付:2011年10月8日、9日
(筑波大学学園祭)
場所:筑波大学
来場者:536名
内容:標本、昆虫展示



第22回日本環境教育学会での活動報告

日付:2011年7月16,17日
場所:青森大学
演題:大学生が子ども達を対象に行う昆虫採集を通じた環境教育活動 ~つくバグ1年目の成果と課題~

夏バグ2012「水辺の昆虫を見てみよう」 2012年8月5日 開催決定!!

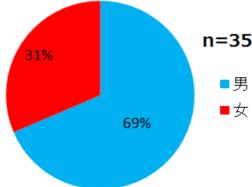
企画当日の流れは次の通り(春バグ2012を例に)。



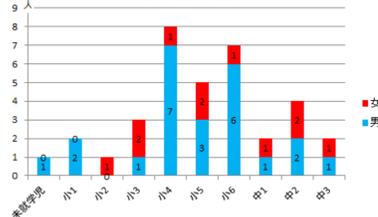
3. 参加者数と年齢層

これまでの企画の参加者は延べ約120名である(大昆虫博を除く)。そのうち2010, 2011夏バグ, 2012春バグの参加者(子ども)の内訳を示す

参加者(子ども)の男女の割合



学年別参加数

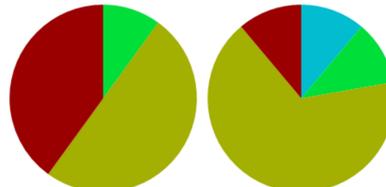


男女比は7:3程度で未就学児から中学3年生まで幅広い参加が見られる。

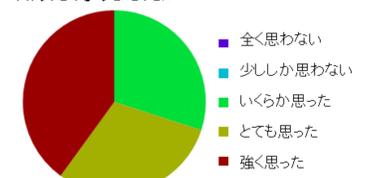
4. アンケートより

春バグ2012の企画終了後に、参加した子ども及び保護者の自然への関心や企画の効果の評価することを目的としたアンケートを行った。その一端を次に示す。

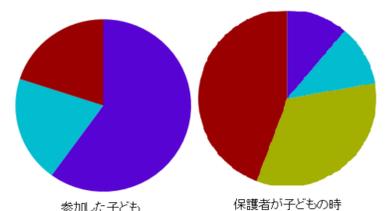
質問:生き物や自然などに興味・関心がありますか



質問:もっと昆虫や生き物について知りたくなりましたか



質問:虫取りにいく頻度はどの程度ですか



全ての参加者(子ども)が企画後に昆虫や生き物についてさらに知りたくなったと答えていることから、この企画が子どもたち自然への関心を促進する効果を有することが期待される。

5. 課題と今後の展開

無理なく運営

- スタッフを増やして負荷を軽減
- 各種助成金の獲得と有効利用

活動の影響評価

- 活動の効果を適切に評価する方法を模索。アンケートの有効活用。

生きものが苦手な子にも参加しやすく!

- 参加者のレベルに応じて複数のコースを用意

6. 謝辞

これまでのつくバグの活動は、平成22年度筑波大学社会貢献プロジェクト、つくばアクションプロジェクト(T-ACT)のご支援を受けて行いました。また今年度の活動は平成24年度筑波大学社会貢献プロジェクト、T-ACT、2012年度東京ガス環境おうえん基金のご支援を受けて行っています。ご支援ご協力いただいている団体、個人の皆様に感謝いたします。